

NOBORITO1945 —登戸研究所70年前の真実—
 第一期 8月15日までの登戸研究所
 —本土決戦準備と登戸研究所—

資料館館長 山田 朗

はじめに

- [1] 70年前＝1945年の戦争の状況を把握する。
- [2] 日本軍の〈本土決戦〉準備について把握する。
- [3] 登戸研究所における
 風船爆弾作戦
 移転、移転後の重点研究、兵器生産 について紹介する。

I 1945年（昭和20年）における戦況と〈本土決戦〉準備

1 戦況の悪化と戦力の消耗

→【年表】

- [1] 3月には米軍がフィリピンの、英軍がビルマの重要地点をほぼ制圧
 3月には東京など主要都市が大規模な空襲を受け、壊滅状態に
 3月末から沖縄戦が始まり、4月～5月には沖縄近海で特攻作戦がピークに
- [2] 小磯国昭内閣から鈴木貫太郎内閣に
- [3] 5月にはドイツ降伏、沖縄戦の戦況悪化
 → 天皇も無条件降伏やむなしとの気持ちに

2 本土決戦準備の本格化

- [1] 「レイテ決戦」断念後、〈本土決戦〉準備は本格化
 「帝国陸海軍作戦計画大綱」（1945.1.20）
 「皇土特ニ本土及朝鮮ノ作戦準備」を「本年初秋迄ニ概成ス」と決定
- [2] 本土決戦作戦計画の策定
 大本営陸軍部「国土築城実施要綱」発令（3.16）
 → 1945.7までの全陣地の骨格完成、1945.10までの完成を命ずる
 大本営陸軍部「決号作戦準備要綱」発令（4.8）
- [3] 本土決戦のための兵力総動員
 敗戦時、陸軍は内地・朝鮮に294万の兵力を展開
 → 新たに150万人を徴集・召集して部隊を編成（装備劣悪・練度も低い）
 → 内陸防御作戦から次第に水際防御作戦へと逆戻り（第一線部隊は水際で「玉砕」想定）
 → 総司令部（大本営）のみ松代へ後退
- [4] 本土決戦の労働力・補助兵力総動員
 義勇兵役法の公布（6.23）：国民義勇隊・国民義勇戦闘隊の組織

3 本土決戦準備の実態

- [1] 特攻兵器の生産と出撃基地（沿岸部）の建設 → 「震洋」「回天」「伏龍」など
- [2] 作戦用道路・飛行場の建設 → 関東地区「リ号演習」
- [3] 沿岸部での陣地構築
- [4] 軍司令部機能・軍需工場の内陸部移転
 → 特に長野県・群馬県
 陸軍登戸研究所などの「秘密戦」研究部門、中野学校など「秘密戦」実施部門も

II 〈秘密戦〉における登戸研究所と中野学校の役割

1 〈秘密戦〉とは何か

- [1] 戦争には必ず付随するが、歴史に記録されない〈裏側の戦争〉
- [2] 戦時に限らず、平時においても密かに行われている〈水面下の戦争〉
- [3] 〈秘密戦〉の4つ要素：防諜・諜報・謀略・宣伝（戦時プロパガンダ）
（これらのうち防諜・諜報・宣伝は〈情報戦〉とくくることができる）

2 陸軍登戸研究所：日本陸軍における〈秘密戦〉兵器・資材の専門開発機関

- 1927年：陸軍科学研究所秘密戦資材研究室（篠田研究室）設置
- 1937年：陸軍科学研究所登戸実験場（電波兵器研究）設置
- 1939年9月：陸軍科学研究所登戸出張所（電波兵器と「特殊科学材料」研究）
第一科（電波兵器）
第二科（毒物・薬物・生物化学兵器・スパイ用品）・第三科（偽札）が増設される
- 1942年10月：第九陸軍技術研究所 第一科で風船爆弾研究・開発
- 1945年5月：本土決戦にそなえ長野県伊那地方等に分散移転

3 陸軍中野学校：日本陸軍における〈秘密戦〉要員の専門育成機関

- 1938年1月：後方勤務要員養成所設置（第1期生19名採用、九段・愛国婦人会別館）
- 1939年4月：中野の旧電信隊跡（現・JR中野駅北側）に移転
- 1940年8月：陸軍中野学校と改称（1944年8月には静岡県磐田郡に二俣分校設置）
- 1945年4月：本土決戦にそなえ群馬県富岡町に移転
- 1938～1945年：2,131名が卒業（戦死289名・不明376名）

III 〈本土決戦〉準備と登戸研究所

1 沖縄における〈秘密戦〉

- [1] 第32軍（沖縄守備軍）の新設（1944年3月22日）と急激な増強（7月～9月）
- [2] 沖縄本島に2個（当初は3個）師団＋1個混成旅団を配置
第62師団・第24師団・独立混成第44旅団
独混44旅団の第2歩兵隊（宇土武彦大佐）＝「国頭支隊」
→ 沖縄本島北部の国頭地区で〈秘密戦〉・遊撃戦を担当
→ 米軍上陸後、遊撃戦を展開（防諜作戦として一般住民をも殺傷：大宜味村渡野喜屋）
- [3] 例外的に本土において決戦準備が進展した部門
「松代大本営」建設工事
「風船爆弾」の開発と実戦投入（当初は生物兵器＝牛疫ウィルス搭載を予定）
→ ただし、「風船爆弾」は〈決戦兵器〉ではなく、後方攪乱のための〈謀略兵器〉

2 決戦準備と〈秘密戦〉関係諸機関の疎開・移転

- [1] 登戸研究所の疎開（1944年末～1945年5月）
電波兵器（レーダー）関係 → 多摩陸軍技術研究所（多摩研）に統合
本部・第二科・第四科 → 長野県の伊那郡（現・駒ヶ根市）
第一科（電波兵器）→ 長野県北安曇郡・兵庫県（関西分廠）
第三科（偽札）→ 福井県武生（和紙製造）、印刷工場は登戸に残る

[2] 陸軍中野学校

教育の重点を遊撃戦研究に（1943年8月～）

静岡県二俣町（現・天竜市）に二俣分教場（分校）を開設、遊撃戦幹部の養成（1944年8月～）

本部も群馬県富岡に疎開（1945年3月）

3 本土での〈秘密戦〉の準備

[1] 遊撃戦の準備：『遊撃戦戦闘教令（案）』の作成

→ 敵中潜入・奇襲・陽動・謀略工作・後方攪乱などを主たる目的
薬物・細菌・時限爆弾（焼夷弾）などの使用

[2] 登戸研究所における遊撃戦準備

第二科・第四科では、遊撃戦用の簡便な携帯兵器の開発・製造

末期における重点開発課題：

◎「研う」：何にでも充填できる粘土状の爆薬

◎焼夷剤：伊那地区（特に中沢地区）において生産

◎「マルケ」（ね号）：熱線（赤外線）誘導式の爆弾

◎「く号」：怪力光線・怪力電波

◎細菌兵器

大量の石井式濾過器濾過筒を伊那地区に搬入 → 細菌戦の準備か

[3] 登戸研究所（研究開発）と中野学校（人材養成）の融合

→ 本土決戦に際しては、〈秘密戦〉関係機関は、地理的にも接近し、開発・製造・実戦が融合する体制になりつつあった。

登戸研究所が北安曇・伊那、中野学校が二俣・富岡 → いずれも松代を防衛する拠点

おわりに

[1] 戦争・〈秘密戦〉の記憶を残す重要性

[2] 決して「幻」ではなかった〈本土決戦〉

[3] 明治大学中野・生田キャンパスで戦争を語り継ぐ意義

【参考文献】

[1] 伴繁雄『陸軍登戸研究所の真実』（芙蓉書房出版、2001年、新装版2010年）

[2] 海野福寿ほか編『陸軍登戸研究所—隠蔽された謀略秘密兵器開発—』（青木書店、2003年）

[3] 山田朗・渡辺賢二・齋藤一晴『登戸研究所から考える戦争と平和』（芙蓉書房出版、2011年）

[4] 渡辺賢二『陸軍登戸研究所と謀略戦』（吉川弘文館、2012年）

[5] 山田朗・明治大学平和教育登戸研究所資料館編『陸軍登戸研究所〈秘密戦〉の世界』（明治大学出版会、2012年）

【年表】アジア太平洋戦争年表(1944年7月～1945年9月)

1944年(昭和19年)

- 6-15 米軍、サイパン島に上陸を開始。
- 16 中国基地の米B-29 初めて九州に来襲する。
- 19 マリアナ沖海戦(～6-20)、連合艦隊の空母部隊壊滅する。
- 7- 1 大本営、インパール作戦の中止を決定(戦死約3万人)
- 7 **サイパン守備隊「玉砕」**(戦死約3万人、捕虜約1000人、住民死者約1万人)。
- 7 緊急閣議、南西諸島の老幼婦女子・学童の県外集団疎開を決定。
- 18 **東条英機内閣総辞職**(7-22小磯内閣成立)。
- 24 大本営、フィリピン・台湾・南西諸島・本土・北方各地域にわたる(捷号作戦)準備下令。
- 8-22 対馬丸(学童疎開船)撃沈される(1484人[学童766人]死亡)。
- 9-21 大本営、決戦方面を捷1号方面=フィリピン方面と決定。
- 10-10 米機動部隊、南西諸島を大空襲。
- 12 台湾沖航空戦(～10-15大本営は「轟撃沈空母11・戦艦2」と発表)
- 20 米軍4個師団、レイテ島東岸に上陸(大本営、**レイテ決戦方針を決定**)。
- 23 レイテ沖海戦(～10-26)、連合艦隊の水上部隊ほぼ壊滅する。
- 21 海軍特別攻撃隊初出撃。
- 11- 3 **風船爆弾作戦開始**(11-7再開)
- 24 マリアナ基地のB-29約70機、東京を初空襲。
- 12-19 大本営、**レイテ決戦方針を放棄**(12-27決戦断念を上奏)。

1945年(昭和20年)

- 1- 9 米軍、ルソン島リングエン湾に上陸する。
- 2- 3 米軍、マニラ市内に侵入する(3-3占領)。
- 14 近衛文麿、「敗戦必至」と天皇に単独上奏
- 19 米軍、硫黄島に上陸開始(3-17決別電報、3-26「玉砕」)。
- 3-10 米B-29東京大空襲(3-14大阪大空襲)
- 18 米艦載機、九州各地を攻撃(～3-19、3-28～3-29)
- 26 米軍、慶良間列島の座間味島などに上陸。
- **風船爆弾放球のピーク**
- 4- 1 **米軍4個師団、沖縄本島中部西海岸に上陸開始。北・中飛行場を占領。**
- 5 小磯内閣総辞職(4-7鈴木貫太郎内閣成立)。
- 7 沖縄への海上特攻隊(「大和」以下10隻)の主力壊滅。
- 8 **大本営「捷号作戦(本土決戦)準備要綱」を下令。**
- 24 ソ連軍、ベルリンに突入(5-2陥落)。
- 29 **登戸研究所、登戸にて移転式典**
- 30 ヒトラー自殺、後任総統にゲーリング就任。
- 5- 3 英印軍、ラングーン占領。
- 4 沖縄・第32軍、攻勢作戦開始(5-5中止)。
- 8 **ドイツ軍、ベルリンで無条件降伏文書に調印。**
- 22 第32軍、沖縄南部への撤退を決定(5-26大本営に報告)。
- 6- 1 米軍、首里に突入する。
- 23 第32軍牛島司令官・長参謀長、沖縄南部の摩文仁で自決(32軍の組織的抵抗終わる)。
- 6 下旬 マリアナ基地のB29、沖縄基地のB-24、硫黄島のP-51などが加わり、中小都市への焼夷弾攻撃・交通破壊攻撃が激化する。
- 7-16 米、初の原爆実験に成功する。
- 26 連合軍、対日ポツダム宣言を発表する。
- 28 鈴木首相「ポツダム宣言は黙殺、戦争邁進」の旨の談話発表。
- 8- 6 広島に原子爆弾を投下される(8-9長崎)
- 9 ソ連軍、満州・朝鮮・樺太に進攻を開始する。
- 10 御前会議(～11)、(国体護持)を条件にポツダム宣言受諾を決定。
- 14 **御前会議、無条件降伏を決定し、中立国を通じて連合国へ申し入れる。**
- 15 **終戦の詔書、ラジオ放送。**
- 15 鈴木貫太郎内閣総辞職(8-17東久邇宮稔彦内閣成立)
- 28 連合国の先遣部隊、厚木飛行場に到着。
- 30 連合軍最高司令官(SCAP)マッカーサー、厚木に到着。
- 9- 2 政府、米戦艦ミズーリ号上で**降伏文書に調印。**
- 7 南西諸島の日本軍、降伏文書に調印。
- 13 大本営閉鎖